

令和5年度 第2回群馬県内水面漁場管理委員会議事録

1 日 時 令和5年8月21日（月）午後2時08分から午後15時10分まで

2 場 所 群馬県水産会館 2階会議室

3 出席者

- ・ 委員 11名 松元会長 吉澤会長代理 佐々木委員 戸部委員 水島委員
中島委員 針谷委員 松田委員 赤石委員 佐藤委員
長阪委員
- ・ 群馬県 2名 蚕糸園芸課 地域特産主監 齊藤昭紀
水産試験場 場長 小西浩司
- ・ 事務局 4名 事務局長（水産係長）神澤裕平、書記（水産係主任）渡辺峻
書記（水産係技師）小材佳之、書記（水産係主事）下境裕貴
- ・ 傍聴者 なし

4 開会

（事務局長）

- ・ 委員10名の出席により、群馬県内水面漁場管理委員会事務規程第7条による成立要件を満たしたため、令和5年度第2回群馬県内水面漁場管理委員会を開催する。

5 あいさつ

- ・ 群馬県内水面漁場管理委員会 松元会長
- ・ 群馬県蚕糸園芸課 齊藤地域特産主監

6 議事

（松元会長）

- ・ 本日の議事録署名人は赤石委員と長阪委員にお願いしたい。
- ・ 議題1「第二種区画漁業の内水面漁場計画（案）について」の答申を行う。何か意見や質問等あるか。

（事務局）

- ・ 事務局から補足説明したい。

（松元会長）

- ・ 説明願いたい。

（事務局）

- ・ 資料1「第二種区画漁業の内水面漁場計画（案）」について説明。

（松元会長）

- ・ 事務局から補足説明があったが、何か意見や質問等あるか。

（委員）

- ・ 意見、質問なし。

（松元会長）

- ・ それでは、採決を採りたい。原案どおり「支障なし」と答申することでよいか。賛成の方は挙手願いたい。

（委員）

- ・ 全員挙手

(松元会長)

- ・全員賛成により、「諮問どおりで支障なし」とする。事務局は手続き願いたい。

(松元会長)

- ・次に、その他で何かあるか。

※水島委員が議場に入室し、委員11名となる。

(吉澤会長代理)

- ・第二種区画漁業権の内水面漁場計画（案）では、こい養殖業を営んでいる漁場が多いが、こい養殖業の現状や問題点等を教えて欲しい。

(佐々木委員)

- ・こい養殖業は防疫対策や池の管理が難しいという理由で、年々業者数は減少している。自分もため池養殖を行っていたが、管理が難しいのでやめてしまった。
- ・コロナの影響もあり、生産量だけではなく販売量も減少している状況である。

(吉澤会長代理)

- ・動画サイトを見ると、こいやうなぎ料理の紹介動画があるが、こいを使用した料理の開発など、新しい取り組みは何かあるか。

(佐々木委員)

- ・自分は主に取り組んでいない。他のこい養殖業者の中には一生懸命取り組んでいる業者がいるようだ。

(中島委員)

- ・本県第二種区画漁業権の漁場においてもカワウのねぐら・コロニーが確認されている場所がある。そのため、第二種区画漁業権と第五種共同漁業権設定場所の両方でカワウ対策をしていく必要があると改めて感じた。

(松元会長)

- ・現在、漁業協同組合連合会（以下「漁連」とする。）として、関係機関とカワウ対策を進めているが、現状では効果的な方法が見つからない。
- ・漁連としても県の担当部局と現場に足を運び、問題意識を持ってカワウ対策に取り組んでいきたいと考えている。
- ・中島委員が指摘するように、第二種区画漁業権や第五種共同漁業権の両方でカワウ対策を行っていく必要がある。
- ・他に何か意見等あるか。

(松元会長)

- ・なければ、上野村漁業協同組合（以下「漁協」とする。）では、外国人と度々トラブルになっている。
- ・他の漁協の状況を知りたい。

(水島委員)

- ・外国人とのトラブルとは具体的には何を指しているのか。

(松元会長)

- ・言語と遊漁のルールに関する問題である。

(水島委員)

- ・上州漁協も実際にトラブルにあったことがあるが、相手方に警察を呼ぶ旨を伝えると大概のトラブルは落ち着いた。

(吉澤会長代理)

- ・他県の漁協を訪問した際に、漁協とキャンパー間でトラブルになり、身の危険を感じた経験をしたと聞いたことがある。
- ・トラブルには漁協だけで対応はせず、警察と協力して対応する方が良いと思う。

(佐藤委員)

- ・海外では、遊漁者と水遊びをしている人は、同じ場所で楽しんでいるようだ。日本ではあまり見られない光景であるが、何のトラブルもないようだ。

(松元会長)

- ・川は公共物であるが、ある程度の秩序維持は大事であると考えている。
- ・私から最後にもう1つ意見がある。今夏は、子どもの水難事故のニュースが目についた。推論であるが、子どもが川にふれあう機会が減ったという時代の現れではないかと考えられる。
- ・親世代も川に対する知識や警戒心がない。先日、3歳の子どもが川に流されて死亡したというニュースがあったが、保護者の監視も無く3歳の子どもを川で泳がせることは信じられないと思った。多くの人が川に対する警戒心がないということを社会全体で考える必要があると感じた。
- ・今の子どもたちは川に対する十分な知識がなく、学校教育だけで全て行うことは難しいが、何か効果的な方法で働きかけを行っていく必要があると感じた。
- ・他に意見等なければ、これで委員会を終了したい。

7. 閉会

文章中の（）内は事務局で加筆

群馬県内水面漁場管理委員会

会長 _____

委員 _____

委員 _____